

平成28年度 グループホーム事業報告（期間：平成 28 年 4 月 ～ 平成 29 年 3 月末）

分類	重点実施項目	実行計画	評価指標	目標値	結果値	実施報告
地域貢献 の視点	・地域行事への参画と、地域住民との協力	・地域の集いの場へ参加、地域行事への参加、	参加回数	年2回	年4回	・野瀬地区のふれあい昼食会への年2回の参加を最低目標とし、それ以外にも地区の夏祭りへの参加や、新しく地区の草刈りに協力できた。とんども参加予定であったが、大雪により中止となった。
		地域活動への協力。				
収支 の視点	・担当職員による個別ケアによる他施設との差別	・各担当での個別ケアの実施。	実施回数	年3回	全員には至らず	・職員の不足、利用者の重度化もあり、やはり全体行事としてのセラピー活動が多くなった。 29年度は、委員会を中心にセラピー活動自体の定義付けを図る。 ・稼働率については、これまでグループホームでは対処できなかった症例(脳梗塞、肺炎等)も、看護師、医師と連携して年間を通じ、入院者を一名も出す事がなく好稼働で推移させる事ができた この様な症例を通じて、介護職員も介護のキャパシティが上がり、ある意味では医療面での強みをもつグループホームとしての確立ができた。
	化と、稼働率の維持	・入院による空床を作らない。	稼働率	95%	99.20%	
利用者の 視点	・担当職員による利用者及び家族との関係性の	・地域行事への利用者の参加。	参加回数	参加回数	年4回	・個別ケアと併せて、地域行事への参加として地域の昼食会でのふれあい、地域の夏祭り等へ参加する事ができたが、参加できる利用者が身体状況的に限られた。しかし、参加した利用者にとっては、楽しい思い出とする事ができた。 ・概ね、どの家族とも良好な信頼関係が築けており、家族交流会でも多数の家族参加があった。関係性は維持向上が図れた。
	向上と、個別ケアの実施	・家族交流会の開催	開催回数	年2回	年2回	
業務プロセス の視点	・ケアプランの作成	・プラン見直し回数	計画作成担当者によるプランの作成	入所者全員	入所者全員	・これまでのグループホームのケアプランの記載の仕方は、世間現況に則した記入方法ではなかった為、計画作成担当者が介護職員の原案を基に見直し、作成を行う様に移行した。 ・プランはこれまでは手書きであったが、データ化する事ができた。
学習と成長 の視点	・職員の基礎力の向上と、GHとしての役割の	・習熟度確認回数	直接介助力の向上	月1回	月1回	・重度化に伴い、否応なく間接的介助から直接介助の場面が増える事にはなったが、それが介護力の向上に繋がる結果となった。 ・事業所開設より時を経ており、職員の入れ替わりも激しく、書類データ等の整理も追いついていない状態であったが、使用書式等の吟味し整理する事ができた。
	再度明確化					